

## 会議録

会議の名称	第4回 飯塚市文化施設活用検討委員会
開催日時	令和6年1月29日（月）15:00～17:00
開始場所	イイツカコミュニティセンター 2階 展示ホール
出席委員	徳永委員、河委員、緒方委員、鈴木委員、安徳委員、長曾我部委員、 中島委員、竹川委員、奥田委員、豊嶋委員、元野木委員
欠席委員	瓜生委員、榎本委員、金原委員、多賀谷委員
事務局	山田教育部長、坂口文化課長、久原文化施設整備担当参与、 吉田文化施設整備推進係長、西田文化施設整備推進係主任、 原野商工観光課長、本松商工観光課長補佐、梶井観光係長、永津商工係員
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>（1）第4～6回市民ワークショップの開催報告</p> <p>（2）改修計画の検討状況</p> <p>（3）事業計画（案）について</p> <p>（4）組織計画の考え方について</p> <p>（5）休館中のプレイベントについて</p> <p>（6）今後の審議の進め方</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
会議資料	資料1 第4回飯塚市文化施設活用検討委員会資料 （別紙）平面図 （参考配付）第4回、第5回市民ワークショップかわら版
公開・非公開 の別	①公開      2 一部公開      3 非公開  （傍聴者 3人）
その他（非公 開理由等）	
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>（1）第4～6回市民ワークショップの開催報告</p> <p>●事務局より資料1（1）について以下のことを説明</p>

・第4～6回市民ワークショップの開催結果の報告

(2) 改修計画の検討状況

①法令調査、建築指導課協議の報告

●事務局より資料1(2)(P8～P10)について以下のことを説明

・前回の委員会以降行った法令調査、県建築指導課との協議結果の報告

【質問・意見等】

委員：文化財保存活用計画の策定は進行中なのか。嘉穂劇場の県指定文化財についても検討してはどうか。

事務局：文化財保存活用計画策定は現在進行中である。県指定文化財について県に話をしたことはあるが積極的な反応は見られなかった。まずは市において保存すべき文化財として進めていきたい。

②附属棟の配置計画について

●事務局より資料1(2)(P11)および別紙平面図について以下のことを説明

・劇場機能を維持するために必要な施設配置のゾーニングイメージを示すとともにその際に検討すべき項目について説明

【質問・意見等】

委員長：楽屋棟と売店棟は取り壊しが必要だが、新しいエンターテインメント拠点、利用者が使いやすい施設にするための良い機会でもあると考える。

委員：敷地内にイメージされている保存庫での保存資料とは具体的にどういうものか。下足棟に歌舞伎役者の名札看板が残っている。貴重な資料の確認、保存を徹底してほしい。住宅棟を壊さざるを得ないのは理解できるが、可能であれば移築して伊藤家の歴史が継承されるとよい。

事務局：ここでいう保存資料とは水害時に外した部材や屋外で掲示していた看板などを指している。

委員長：できるだけ歴史を残す形で展示を考えたいという話も以前あった。住宅棟についてどのようにお考えか。

事務局：住宅棟は劇場の歴史を語るうえで重要な意味合いを持つものと理解しているが、運営するうえで支障になってしまう。文化財的な価値についても評価しつつ、建物として残すことができなくなったとしても、徹底した調査・記録をして保存することを考えていきたい。

副委員長：舞台備品庫の規模は舞台スペックの方針と関わるだろう。また、大道具のなかでも湿度温度管理が求められるものがある。展示室や保存庫を博物館レベルとするのか。理想としては、ひとつの展示スペースに集約されているとよいが、限られた予算のなかでどうすべきか検討事

項と考える。

委員 : 搬入口について、これまでの配置では利用しづらかった。さらなる改善として隣接している私有地を購入することはできないか。

事務局 : 私有地の購入について現段階では考えていない。貴重なご意見として受け止めさせていただく。

委員 : 大型バスへの対応は従来通りなのか、新しい動線を想定しているのか。ひなまつりの際は誘導のトラブルが多かった。計画段階から人の移動や搬入についてシミュレーションを徹底していただきたい。

事務局 : これまで、見学時は大型バスを最大2台駐車できる状況であった。事務所棟を撤去する方針のため、間口が広がり駐車しやすくなると考える。

委員長 : 観光地としての駐車場検討を徹底していただきたい。

委員 : 商店街やまちなかを歩かせる考え方が必要。敷地に限界があるため、まちなかの一般駐車場と連携できないか。

事務局 : 市内の大型バスの駐車エリアについて調査ができてない。今後検討を進める。

委員長 : 商店街を歩くことも重要。周辺も含めて人を誘導できるように。

### ③劇場の収容人数について

#### ●事務局より資料1(2)(P12~P14)について以下のことを説明

・快適性等を勘案した劇場の座席のあり方とその際に検討すべき項目について説明

#### 【質問・意見等】

委員長 : 桮席を残すべきか、今後の新しい利用のために快適性を求めるべきか意見が分かれている状況。席数が減ることで興行収入が減ることも予想される。客席の考え方についてご意見いただきたい。

委員 : 車いすスペースについて現状どのような検討をされているか。

事務局 : 1階席の最後部に4席程度を検討している。

委員 : 嘉穂劇場の1番の魅力は1200席という席数。快適性は演目によると考える。音楽など演目時間が短いイベントの際はあまり快適性を考慮しなくてよいと考える。八千代座は840席としているが快適性を考慮すると650席。嘉穂劇場においては奥行きを深さを活かして収容人数1000席以上は確保していただきたい。

副委員長 : 芝居小屋を椅子がなく、立見ではない劇場として考えると、収容人数は客席部分の面積を0.5㎡で割った数となる。快適ではないがこの数字で成立しているケースと、消防署との協議により少ない席数としているケースがある。八千代座は1911年の開館当初は1274席だが、一

人当たり一辺 30cm の座布団で計算している。今の定員は 840 席で実質 650 席。内子座は 650 席が今の定員で実質は 500 席。永楽館は快適性と消防署との協議により 300 席となり、チケット収入が厳しい状況。嘉穂劇場は当初 1500 人収容していたと聞く。いざという時には大勢収容できるようにしておくのがいいのではないか。見切れ席もある中で運営者がきちんと貸出し規定を作成し、コントロールしていくこととしてはどうか。

委員長 : はじめから人数を制限しすぎてしまうとそれ以降増やすことができなくなる。収容人数を絞り込んでしまうと、収容人数だけで利用しないと判断されるケースも出てくるのではないか。できる限り収容人数を確保できるように進めていただきたい。

委員 : 個人的には廊下の椅子席がお気に入りだった。花道を後方から見ることができ、特等席でもある。平常では利用できなくても特別な見え方ができる「遊び」の部分の座席として想定していただきたい。トイレへのアクセスもよいため、以前は車いす席として利用されていた。

委員 : 嘉穂劇場の魅力は桝席にある。1 階席の桝席は残していただきたい。快適に過ごすための方法は主催者に委ねてはどうか。八千代座のように取り外し可能なベンチを設置してはどうか。2 階席は段差をつけるのか。

事務局 : 2 階席の段差は変更しない想定。

委員 : 保存活用計画には部材等について保存、保全する部分などの記載が必要となっている。何を文化財として残すのか整理が必要と考える。

副委員長: 重要文化財の康楽館はパイプ椅子を設置する場合は敷席を取り外して平土間にしているが、いつでも元に戻せるようにしている。内子座は取り外し可能な腰掛を設置している。金毘羅大芝居も 2 段階で小さいベンチを設置している。見切れ席については芝居小屋の特性と合わせてその旨を事前に広報・アナウンスすることでクレームはあまりないだろう。

### (3) 事業計画 (案) について

#### ●事務局より資料 1 (3) について以下のことを説明

#### ・再開後の事業計画案と具体的な事業イメージ案を説明【質問・意見等】

委員長 : より具体的な事業イメージを示していただいた。嘉穂劇場らしい事業内容だが、またその他アイデアがあればご意見いただきたい。これまで議論した内容を盛り込んでいただいた印象である。

委員 : MICE など大規模催事を積極的に目指すと記載があるが、学会を誘致する際は駐車場アクセスなど丁寧に検討していただきたい。

- 委員長 : 学会を誘致する場合、市内の大学とのネットワークも重要になる。
- 委員 : 飯塚市にはコスモスコモンがある。差別化をしないと共倒れになるのではないか。嘉穂劇場の良さを活かした事業計画にできないか。コスモスコモンは大ホールの稼働率が低い状況。取り合いにならないような事業計画を検討していただきたい。
- 事務局 : 嘉穂劇場らしさを追求した運営が求められる。コスモスコモンがあるなかで、両立できる運営を考えていきたい。資料は市民ワークショップでの意見を踏まえた整理としているが今後検討を進めていく。
- 委員長 : 嘉穂劇場でしかできないこと、ブランディングの仕掛けが必要と考える。またお客様を広く獲得していくことが重要と考える。ブランディングのその先は海外のお客様に利用してもらおうという見通しも含めて考えたほうがいいのではないか。コスモスコモンは安価で市民に使いやすい料金設定だが、嘉穂劇場は価格や価値の設定を別途考える必要がある。
- 委員 : パブリックビューイングなどを嘉穂劇場で出来ると面白い。コスモスコモンは音楽コンクール、吹奏楽の聖地になっている。イベント発信でコスモスコモンと嘉穂劇場の差別化をしに行く、聖地をつくるという視点も良いと考える。
- 委員 : 嘉穂劇場エリアはふるさとを感じさせる場所であり、昭和の要素が残っている場所。痕跡を求めている人もたくさんいる。「イイヅカ魅力発信事業」は良いアイデアだと思う。既存のイベントや懐かしい飲食店などが集まる場所になると良い。外国の方や若い世代が昭和的なものに興味を持っている。「イイヅカ魅力発信事業」にアーカイブ的な機能ももたせられると良い。

#### (4) 組織計画の考え方について

##### ●事務局より資料 1 (4) について以下のことを説明

- ・嘉穂劇場の運営主体の考え方や劇場に求められる職能案について説明

##### 【質問・意見等】

- 委員長 : 必要な職能、運営主体パターンについて自由にご発言いただきたい。
- 委員 : 職能が多く、一社で受けられる企業はいないと考える。共同企業体になると考えるがとりまとめるのが難しい。さらに、市が連携して文化政策を体現することが求められる。指定管理にした場合、利益部分をどう出してあげるか。運営事業者にサウンディングを行いながら要求水準書を策定してはどうか。コスモスコモンと連携しながらも嘉穂劇場のブランディングを出していくことが求められる。
- 副委員長 : 北九州芸術劇場に関わっている人員数はどれぐらいか。

- 委員 : 50～60 名程度。
- 副委員長 : 50 名以上は必要になるということ。直営の場合、市役所で新たに 50 名採用するのか。指定管理者は企業であるため利益を出すことが求められるが、行政はコストパフォーマンスを期待している。事務局内で丁寧な協議が必要。
- 委員 : 北九州芸術劇場は条件付き公募の形式で指定管理者を選定した。現指定管理者は市の外郭団体であるが、市の締め付けや見直しが多い。条件付き公募を外れる可能性もあり、人材育成以前に人材「確保」に苦慮しているという状況もある。
- 事務局 : 飯塚市の場合は、一般公募の他「非公募」で特定の事業者を選定する方式がある。コスモスコモンはその選定方式としていた。運営主体については継続して事務局側でも検討したい。
- 委員 : 学芸員は 2, 3 名必要になると考える。長崎街道木屋瀬宿記念館の運用や組織が参考になるのではないかと。地元 NPO 団体や市職員が入り、地域に密着した運営を行っている。
- 委員 : MICE 誘致事業には労力と予算が求められる。北九州など他の自治体は観光コンベンションビューローがあり、最低でも 2 名の担当がいる。飯塚市の誘致や観光政策の方針と関わってくるのではないかと。飯塚観光協会をうまく取り込むことはできないのか。委託という形で関係団体が運営に入ってはどうか。
- 委員 : 北九州コンベンションビューローには大きな誘致部隊がいる。施設単位ではなく北九州市への誘致が目的であり、事業を確定させるために通常より早めの施設予約が求められる場合もある。相手が何を望んでいるかに応えることが重要であり、誘致の仕方についてコスモスコモンと連携して検討する必要がある。
- 委員長 : 外部組織と積極的に連携したほうがシナジーを生み出せると考える。差別化を図るためにも優位と考える。
- 副委員長 : 嘉穂劇場を未来の飯塚市民、子どもたちに利用してもらおうという意見があったが採算性は確保できない。運営者の腕の見せ所だと思うが、どのように興行利用と両立していくか。歴史ある嘉穂劇場で文化祭や発表会ができるのは価値あることだと思うが課題は多い。
- 委員長 : 採算と教育、パッションとコンパクトな人員による運営の両立は非常に難しい課題であるが意図を汲んでほしい。

(5) 休館中のプレイベントについて

●事務局より資料 1 (5) について以下のことを説明

- ・劇場休館中に劇場への関心を繋ぎとめ、劇場の魅力を発信し続けるための方策案について説明

【質問・意見等】

委員：(委員提出資料「嘉穂劇場活性化(案)」により、劇場前の空間を使った事業提案の説明。)

地域との連携が非常に大切。地域の人間としてお手伝いさせていただきたい。

嘉穂劇場があることで自慢できる地域になるとよい。子供たちに使ってもらいたいという発言があったが、現状、地域にあまり子どもが住んでいない。嘉穂劇場を起点に店舗が増えることで人が住み、ひいては子どもが集まる場所になると良い。また、そんなポテンシャルを持っている場所だと思う。

委員長：広場の利用可否についてどのような状況か。

事務局：庁内で結論は出ていないが、利用できる方針で検討を進めている状況。

委員長：忘れられない取り組みが必要と考える。

事務局：本日いただいた提案書について、実施時期や予算について改めて提示していただきたい。前向きに進めることとする。

委員長：駐車場の活用方法についてアイデアがあればお聞きしたい。

委員：春と秋にJR九州ウォーキングを開催している。飯塚駅と新飯塚駅を結ぶコースで約1000名に参加いただいている。コースの中に嘉穂劇場を通るルートを設定できればと考える。屋外での催事やコスモスコモンと連携した展示があると面白い。

委員：格子が閉まっていると写真撮影ができない。それだけでも改善されるとよい。パネル展示はあまり予算をかけずにできるのではないか。

委員：福岡県観光連盟の仕組みを活用いただき、ブログなどの特集記事や写真を掲載できるとよい。

委員長：いますぐ取り掛かるべきことは情報発信。また、できるだけ広場を開放し写真が撮れるようになるとよい。

(6) 今後の審議の進め方

- 事務局より資料1(6)について説明

4 その他

事務局：次回委員会は3月26日(火)15:00～を予定。

5 閉会